小熊秀雄全集－22

火星探検―漫画台本

小熊秀雄

青空文庫

「目次」

星野博士
火星への通信
火星の運河
火星に人間が住んでゐるか
空中飛行
火星の首都ミルチス・マヂョル市
大歓迎会
腹痛
トマト騒動
火星の看護婦さん
地球に向つて
テン太郎の報告
人間のヒゲと猫のヒゲ
コオロギと蛙

星野博士（ほしのはかせ）

○

テン太郎や　お昼（ひる）のおべんとうを　天文台（もんだい）のお父（とう）さんに　とどけておくれ
ハイ　行ってきます

○

ニヤン子とピチクン　僕（ぼく）についてきたまへ
天文台をみせてくれる？
テン太郎さん　ぼくもついてゆきますよ

○

さあ　みんなでそろって　でかけやう
足（あし）なみ　そろへて
一二　一二

○
ピチクン　あんまり鼻をくつつけては　いけないよ
だつて　いい匂ひがするんだもの
あら　ほんとだ　匂ひだけかぐのは　つらいわね

○
あれが天文台だ　あそこでお父さんは　星の世界の研究をなさつてゐるのだ
月や星を見る望遠鏡は　あのまあるい屋根の　やうな所にあるのよ
ニヤン君　よくしつてゐるね

○
小使さんがゐるかしら
きれいな建物ね
屋根の上で　なんだかくるくる　まはつてゐるね

○
小使さん　お父さんの所へ　おべんとうをもつてきました

わたしも　おともしたんだわ
これは　これは　星野博士のぼっちやんですか　博士は研究室の方です

○
ぢや　ぼくたち　中に入つてもいゝですね
あゝ　ええですとも　その長いらうかを通つて　突きあたりの丸い建物です

○
あそこだな
あらまあ
ずゐぶん長いらうかだなあ

○
ここがね　お父さんがゐらつしやる　火星研究室だよ
火星といふのは　人間がすんでゐるといふ　星のことだわね
さうだよ

○
あら　向ふにつづいてる丸い円筒のやうな建物はなにかしら
あの建物は、火星へ飛んでゆく、ロケットの格納庫なんだ
ちよつとのぞいてみたいわね

○
テン太郎さん　ちよつと、まつて　なんだか中の様子がへんですよ
ほんとにへんだわ
さうかしら　ぢや、ニヤンちやん調べてくれ給へ

○
あらまあ　おどろいた　大変だわ

○
（ドタバタ　ドタバタ）
なかで　何か起つたの
早く　降りてくれ、何があつたか、しらしてくれ

○
どうしたんだ　ニャンちやん
研究室の中では、ヒゲの引(ひ)つ張(ば)り合ひよ
それぢや、喧嘩(けんくわ)を、してゐるの

○
さうなのよ　テン太郎さんのお父(とう)さんと月野博士(のはかせ)とが
それは大変だ　のぞいてみやう
それがいい

○
この窓(まど)からのぞいてみやう　シーツしづかにしづかに
あらまあ
へんな喧嘩(けんくわ)だな

○

わしは、どうしても　火星には人間が　をらんと思ひますのぢやいや、ちがふ　火星には人間がをりますよ

○
これはけしからん　わしのヒゲを引つぱつて
わしのヒゲも　あなたに引ッぱられてをりますのぢや

○
ヒゲがぬけてしまつても　わしはわしの考へを変へません
わしは首がぬけても　さう信じてをりますわい

○
これではいつまでたつてもケリがつかん　研究をつづけませう
さやう　研究がだいいちです　月野さん、わしのヒゲを離して下さい

○
これは失礼

わしこそ　失礼しました

○

星野さん　あなたはたいへんヒゲが御自慢のやうですな
あなたのこそ美事ですよ　わしが、ひつぱつて台なしにしましたわい　どれ櫛をもつてをりますよ

○

これは恐縮の至りです
いや、どうも　お互ひさまで

○

ヒゲを引つぱつてゐるときは　どうなるかと思ひましたよ
そつと降りやう　いや、おどろいてしまつた
ほんとに心配したわ　でも仲直りしてよかつたわ

○

お父さん　お昼のお弁当をもつてきました

○

おお　テン太郎か

おや　ニャン子にピチも御苦労　入り給へ

○

これは坊ちやん　やあ、いらつしやい　いま貴方のお父さんと床屋ごつこをやつてゐましたわい

全くその通り　アハハ

ウフフ

ウフフ

ウフフ

○

けふのお弁当は何んぢや　これはノリで包んだおにぎりぢやなあ

何ぢや君たちは　なにがそんなにおかしいのぢや

ウフフ　クス　クス

○
月野さん　ひとついかが
ほほう　これはわしの大好物でして　ひとつちやうだい致しませう

○
ええと　これが火星だとしますと

○
火星の運河の問題ですかな
左様　望遠鏡でみますと　河はみんなまつすぐに見えますね

○
火星人が造つたものだといふんですな
その通り　火星の運河は　洪水とか噴火とかの自然の力で出来たとは思へませんね

○
それはちがひますよ、あまり地球から遠いので　直線にみえるだけですよ
それは　ちがひますな

○
現に写真にも　まつすぐにうつりますからね
写真や望遠鏡は　まだ完全ではありませんな
あら、また始まりさうだぞ
いまにどつちかがヒゲをひツぱつてよ
これは天候険悪だぞ

○
星野さん　あなたはどうも強情でよろしくない
貴方こそ強情ですわい
あらあら
とうとう　ヒゲををひつぱつたい
アハハ　おかしい　おかしい

○

あつ　これはとんだ失敗だ　あなたのお父さんの大事なヒゲを　引つぱつてしまつたわい
いや　かまわんですよ　ハハハ
アハハ　ハハ　ハ

○

いかがです　月野さん　おにぎりを半分さしあげませう
これはどうも
おや　また仲直りだ
仲が良いんだか悪いんだか　わからないなあ

○

ぼく達も　おにぎりをたべたいなあ
さうだつたね　これは気がつかなかつた　さあ君たちもおあがり
火星の話も面白いけれど
おにぎりもうまいわね

その通りぢやアハハ

火星への通信

○
坊ちやん、わしが研究室を案内してあげやう
やあ、うれしいなあ
みせて　もらはう

○
わたし　火星へ行つてみたくなつたわ

○
これは、わしが研究をうけもつてゐる機械ですよ
大きなものだなあ
何んだらう
何んの機械だらう

○
いま機械の覆ひをとりますから　離れて見てゐてごらん
アッ　わかつた　いつかお父さんが話してくれた　火星信号器だ

○
さうです、この機械は　地球から火星へ信号するのです
すごいなあ
ずゐぶん光るわね
まるで鏡のやうだ

○
さうです　これは鏡です　ピッカリングといふ天文学者が考へ出した　火星への信号の仕方です
これで火星へ　信号してゐるのかしら

○
いやこれは実験模型です　ほんとうに信号するときは　半哩四方ほどの大きな鏡にするので

す
半哩四方とは　すごい大きな鏡を使ふんだな

○
ほをら　あそこの山へ 光線を反射させましたよ
あら、山へ映つてきれいだわ
やあ　光る光る

○
太陽の面の百万分の一の大きさの鏡をつくると　丁度半哩平方程の鏡がいることになります
その大きな鏡に　太陽の光をうけさせて光らすと　火星の側から見ると第五等級の星の光ほどに光つてみえる……

○
しかしいくら信号をしても　火星に智慧のある生物がゐなければ　我々の信号を受取ることができない
やあ　あんなに遠くの方の森が照らされて　明るくなつた

○
さあ　こんどは鏡の反射を街の方へ移してみやう

○
やあ　いま光つた所は水道タンクだ

○
でも火星に生物がゐなかつたら　かういふ研究は無駄になるわね
いやいや　さうではない、学者の研究に無駄はない　研究さへして置けば他のことにも応用できる

○
おぢさん　いろいろ見せていただいてありがたう
ほんとうに面白かつたわ
おぢさん　ありがたう
また、天文台にやつて来給へ　他のものを見せてあげやう

○
やあ　愉快(ゆくわい)愉快
火星に生物が住んでゐたら面白いなあ
わたしたちのやうな猫(ねこ)もゐるかしら
猫がゐるとすれば、当然鼠(たうぜんねずみ)もゐるだらうな

○
火星に鼠がゐるとすれば　鼠トリも発明(はつめい)されてゐるだらうなあ
とつた鼠は交番(かうばん)にもつていつて　買(か)つてもらふだらうな
すると　火星には交番(かうばん)もあるといふことになるわね

○
あつ　これは大変(へん)だ
やあ　急に目がくらくらしだした
どうしたのでせう　わたし

○
さあ早く　みんなどこかにかくれろ
やあ　わかつた　月野博士(のはかせ)が火星信号器(くわせいしんがうき)でぼく達(たち)へ光ををくつてゐるんだ
なんて　まぶしいんでせう

○
ハハハ　みんなまぶしがつて逃(に)げ出したぞ

○
降参(かうさん)だ
わあ逃げろ　逃げろ
待(ま)つてちやうだい

火星の運河

○

ああ重い　もうすこしだ　エッチラエッチラ
やあ　お父さんがお帰りになつた

○

テン太郎　けふ　お父さんは気嫌が悪いんぢや
こりや　いかん
まあ　どうなさいました

○

どうもかうもない　わしは月野さんにヒゲをつかまれたんぢや
おや　まあ
お父さんはいつも議論をやつてゐるんだなあ

○
その通り　しかし、わしも月野さんのヒゲをつかんでやった
あなた　ではまた火星のことか何かで
うん　さうぢや

○
わしや腹が立つて　かういふ風にな　うんとひつぱつてやつた
すると　月野もわしのヒゲにぶらさがつて　うんとかうして引つぱりおつた

○
（ブス　ブスン）
あつ　これは失敗
まあ大体　けふは天文台で　かういふ風な大さわぎぢやつたんぢや！
まあ　ご本が
これはおどろいた

○

ニャン君　ご主人の　おへやで仕事だ　仕事だ　早くきて手伝つておくれよ
ご用
いいわ　手伝つてあげるわ

○

大げさね　ピチ君　白ハチ巻なんかして
そういふ君だつて頬かぶりなんかしておかしいよ
や、これ何んです　お父さん
なんぢや

○

うむ、それぢや　それが月野博士との問題の種だつたのだ
それは火星の運河を写生した絵ぢや
運河といふのは　堀割りの大きなやうなのですね

○

さうぢや　この運河を望遠鏡で見ると　この様に　あまり　きれいにまつすぐな線なんで

（火星シヤセイヅ）
その運河は何か生物がほつて造つたのだといふんですね

○
さうぢやよ　火星に生きものがゐて運河をつくつたといふ説をたてる学者がゐる
お父さんは　火星には生物がゐないといふんですか

○
わしは居ないとはいはん　しかし居るともいはん
お父さんはどつちなんです

○
どつちか分らん　ただね　あの運河の様なものは　人間なんかでなくともできると言ふのぢや
火星に人間がゐると面白いんだがなア

○
テン太郎や　庭へ出ておいで

何をするんですか

○

ピチ　おまへ　この紙をくわへて走れ　わがはいがよしといふ所までだ　よいか

○

馳(かけ)つこなら　あたしだつて負(ま)けないわ
ニャン君(くん)になんか負けるもんか

○

フーフー　どこまで走るんだらう
なあんだ　いくぢがないのね

○

博士(はかせ)もつと走るんですか
止まれ　よろしい　樹(き)の上にのぼれ

○
うわあ僕は犬だから　木のぼりは困つたなア
それぢや　わたしが代つて登つてあげるわ

○
テン太郎サアン　この辺でいいですか
てつぺんまで登れつて　いつてゐるよ

○
もつとのぼるの　少しこわいわね
なあんだ僕をいくぢなしといつたくせに

○
ぢや、もつと登つたつていいわ　ちよつと芸当だわね
おや　博士が大きな声で何か言つてゐるよ
紙をこつちに見せてくれつてさ

○
さてテン太郎　いまニャン君がもつてゐる紙をよくごらん
何かがかいてありますね

○
おや
たくさん線が　引いてあるやうですね
あれを火星の運河だとして　一つ写生をしてごらん

○
よしきた、でもよく見えないんです
そんな弱虫をいつてはいかん　お父さんは毎日天文台でもつと遠くを見てゐるんだ

○
これは難かしい仕事だなあ
お父さんなんかどうする　毎日地球と太陽との距離六千二百万哩の向ふを見てゐるんだよ

○
火星が地球に一ばん近いときでも　年によつて違ふが　三千五百万哩もある
もの凄く遠くに　在るんだなあ

○
いやそれ所か、もつともつと遠くに離れてゐる星が　空には一ぱいあるのだ

○
もう我慢できないわ　手がしびれて上からすべり落ちさうだわ

○
なんだ　智慧がないなあ　君は足だつて使へるぢやないかあ

○
もう駄目よ　足もふるへてきたのよ
もう一段下の枝に　下り給へ　叱られやしないよ

○

ああお尻(しり)が　痛(いた)くなつちやつた
困(こま)つたなあ　ぢやもう一段下の枝へ

○

あたい　つまらなくなつたわ
僕(ぼく)もたいくつだよ　下の枝まで降(お)りてき給(たま)へ

○

これなら楽(らく)だわ　あんたキャラメルもつてゐたわね
さうだつた　一つあげやう

○

おや樹(き)の所に　何も見えなくなつたぞ
ほんとだ　ニャン子たち　何うしたのだらう

○

あさうだ　望遠鏡をもつてきて見てやらう
ああそれから　お父さんが作つてやつた模型のロケットもとつておいで

○
どれどれ
おやあ　これは驚ろいた　ふたりとも樹の下で眠つてゐるぞ

○
このロケットで驚ろかしてやれ
アハハ　驚ろくぞきつと

○
（ドカン！）
うわあ　おどろいた

○
すつかり眠つちやつた

テン太郎さん　ごめんなさいね

○

きみ達は、もつと火星の研究に熱心にならなければいけないよ
だつてわたし　ずゐぶん高い木のてつぺんに上つてこわかつたわ
まあよろしい
いや、どうも恐れ入りました

○

ところでテン太郎　お前の写生した絵を見せてごらん
こんなにかけました

○

テン太郎　お前の描いた絵はこれだ　ところで
ほんとうの絵はこれだ
あらッ　まるで違つちまつた
ほんとに

おかしいわねえ

○

どうぢや目茶くちやな点だつて　ある距離から見ると　そんなに真すぐに見えるんぢや
ほんとうですね　だから　星の運河だつて真すぐに見えても　人間がつくつたとはいへませんね
その通りぢや　お前は呑みこみが早いぞ

○

月野先生は　なんとおつしやるんですか
月野博士はロウエル教授と同じ考へで　火星は水が少ない　そこで運河へは火星人が大仕掛の給水ポンプで水をくばるといふのぢや
ほんとかしら
うそかしら

○

さあ　夕飯がすんだら　今晩はみんなにいいものを見せてあげるぞ

あ、さうだ　けふはお父さんに幻燈写真を見せていただく約束だつた　うれしいなあ

幻燈

まあうれしい　早く見たいわ

火星に人間が住んでゐるか

○

これが　火星の運河を想像して描いた絵の幻燈だ
うわあ　すごいなあ
この太い管はなんでせう
これが　きつと　火星の運河のある所に茂つてゐる 植 物に水を送る管だ

○

運河の長さはどれ位あるんです
それが大変ぢや　何千哩も続いてゐることになる
そして時々 望遠鏡で火星の運河が二本に見える　学者はこれを二重運河といつてゐるんぢや

○

それは、ほんとうに二重でせうか
それはわからん　反対者もある

これを主張する学者は火星にある運河の四分の一が、二重だといふのぢや

○
お父さん　火星の人間はどんな格好をしてゐるでせうね
それは分らんね　想像もつかん　またどんな想像したつてかまはん
足や手が有るかも分らないね
だつてそんな立派な運河をこしらへるんだもの　頭や手はきつと有るわ

○
さうだ　ニャン子のいふ通りだ　とにかく何千哩もの運河を造つてゐるとすれば　測量術だけは発達してゐることになる
ソクリョウ術つてどんなのかしら
ニャン君　きみ、まだしらないのかい

○
ほら　よくそとで三本足をたてて　望遠鏡のやうなものをのぞいては地面や道なぞを量つてゐる人があるだらう

ああ　分つたわ
あれだよ　僕なんかちやんと知つてらあ

○

でもね人間の力でなくても　自然の力でも　いまここに映る位いのまつすぐな運河もできるのぢや　ごらんあれを
やあ
満月だわ
きれいなお月さんだ

○

あの月がいい証拠だよ　火星を調べるには月がとてもいい参考になるんぢや
ぢや　月にも　火星の運河のやうなものがありますか
あるよ　しかも　真つすぐなのもある

○

さあ　ごらん　これが月の面をとつた写真だよ　まん中の所に真つすぐな線があるだらう

ああ　あつた　あつた
ほんとだわ
あれはなんです　お父さん

○
あれは火山の裂け目だ　名前はアリアダウエス小流といつてゐる
あれは　どの位の長さですか
長さは百五十哩ぢや

○
月には　こんな運河のやうなものは沢山あるんですか
いや　月には十哩以上のものはあまりない　しかし火星の運河はみな大きいのぢや

○
さあ　おそくなつてしまつた　これで終りだ
みんな早くおやすみ　またあしたね
ぢや　お父さん　おやすみ

おやすみなさい
おやすみなさい

○
さあ眠(ねむ)らう　いい月だなあ
わたし火星(くわせい)の童謡(どうえう)ができたわ
ぢや　うたつてごらん

○
火星に猫が居(ゐ)るならば　ニヤンとはなかないワンとなく
やあ　うまい　うまい
ひどいなあ　ぢや僕(ぼく)だつてできた

○
火星に犬が居(ゐ)るならば　ワンとはなかないニヤンとなく
やあ　うまい　うまい
ひどいわ　ひどいわ

○
わたしの歌のまねだわ　まねだわ
あれッ　痛いッ　僕の顔をひつかいた
あつ　喧嘩をするんぢやないよ　よしなつてば

○
さあ仲よく合唱しやう
火星に猫がゐるならば
火星に猫がゐるならば

○
おやまあ　なんてさわがしいんでせう

○
シッ　お母さんが来たぞ
大変だ

もぐれ　もぐれ

空中飛行（くうちゅうひかう）

○

グー　グー
グー　グー
クー　クー　クー
おや　みんなよく寝（ね）てゐるやうだわね

○

お母（かあ）さんが行つてしまつた　みんなこんどはほんたうに眠（ねむ）らうね
クウ

○

テン太郎さん　テン太郎さん　テン太郎さん
クー
クー

クー

○

テン太郎さん

テン太郎さん　早く起(お)きてください　大変(へん)です　大変です

オヤ　何んだらう

グー　グー

クー

○

テン太郎さん

テン太郎さん

おや　ストーブの煙突(えんとつ)の穴(あな)から何か入(はい)つてきたわ

○

まあ　たくさん出てきたわ

あなたは誰(だれ)

僕達は火星人です
早く　テン太郎さんを起して下さい

○

火星人……　まあ大変だわ　それではすぐ起すわ
洪水がやって来さうです
すぐ仕度をして逃げださなければ大変です

○

テン太郎さん　早く起きて下さい　大変よ　大変よ
あつ　おどろいた　どうしたの
ムニャ　ムニャ
こちらの　耳の長いかたも起きて下さい

○

やあ　一体全体これは何だい　ずゐぶん小さな人間だなあ
この人達は　火星の人たちです、さあ

クン　クンクン　気持ちが悪いな

○

ごらんなさい　もう洪水がやつて来ました
いつたい　ここは　どこなんだらう
テン太郎さん　早く逃げませうよ
ここが火星ですか　おかしいなあ

○

あつ　窓の外はすばらしい街だ
まあ　なんてきれいな所なんでせう
やあ驚いた　りつぱだなあ
さあ早く仕度をして下さい

○

僕たちはどうして火星へやつて来たらう
わたしも　わからないわ

僕もだ
さあ　そんなことはどうでもいいのです　窓から早く

○

やあ高いなあ　こんな所から飛び降りられないよ
わたし　とても駄目よ　こわいわ

○

僕たちを信用して下さい　ほらかうして飛び降りるんです

○

あなた達は地球からの大切なお客様です　悪いことにはなりませんぢや　わたし体が軽いから先に飛び降てみるわ
それでは僕だつて
僕も降りることにしやう

○

やあ　愉快愉快
体がふわふわと飛んでるぞ　不思議だなあ
どうです　地球とはまるでちがふでせう
あらまあ　蝶々のやうに飛べるわ
ほほ　これは面白い　面白い

○
ごらんなさい　あそこを　いま火星人は洪水を避難してゐます
やあ　雲のやうに　たくさん火星人がとんでゐる
あらまあ　鳥のやうに建物の屋根の上にとまつてゐるわ

○
さあ　僕たちがあなた達を安全な所へ案内しませう
洪水はいつまでもつづきますか
火星の洪水はきまつてあるのです
あれ　あれ　水があんなにあふれて来たわ
運河の岸が　いまにもかくれさうに水がびたびたになつちまつてゐるぞ

○
うわあ！　すごい建物だなあ
なんて高い建物でせう
これは地球ホテルといふ　火星一の高いビルデングです

○
このホテルは　地球からのお客様を迎へるために、わざわざつくつたのです
すると僕達が　最初のお客なんですね
地球からの第一着だすごいぞ
面白いわね

○
さあ　こゝが貴方たちの部屋です
まあ！　きれいなベット
きれいな敷物
どこもこゝも縞模様

○

とんだり　はねたり　おもしろい
さあ　下の露台(ろだい)にでてみませう

○

やあ、火星人(くわせいじん)の　行列(ぎやうれつ)だ
みんな妙(めう)な格好(かつかう)をするわ
何か歌(うた)つてゐるよ
あれは　あなた達(たち)を　歓迎(くわんげい)してアイサツをしてゐるのです

火星の首都ミルチス・マヂョル市

○

これから　市街を御案内いたしませう
ここの街は　なんといふのです
火星の首都です　ミルチス・マヂョル市といふのです

○

ごらんなさい　この素晴らしい火星の運河を
大きいなあ
なんて立派なんでせう
この運河はまつすぐだい

○

この運河はなんに使ふんですか
火星では一年に数回大洪水があるのです、そのときに畑に水をやるんですよ

○
あの畑にはなにが植へてあるんです
トマトですよ
それから何にがあるの
トマトよりありませんよ
おどろいた　あの畑がみんなトマト

○
さうですよ　地球ではパンとか米とかが常食でせう、火星の人間は　トマトだけよりたべないんです
トマトだけしかたべないから　火星の人は大きくならないんだわ
きつとさうだよ
でも体が小さくても　智慧があるようだな

○
ふふふ　智慧は地球の人に負けませんよ、そら　あの人たちをごらんなさい

おや？
頭(あたま)の大きな人と
頭の小さな人とがやつてきたね

○

火星人は　頭の大きい人はものを考(かんが)へてばかりゐるんです
頭の小さい人は？
小さい人は　働(はたら)いてばかりゐるんです
頭の大きい人の考へたことは
頭の小さい人がどんどん作りあげてしまふのです

○

やあ　トマトの収獲(とりいれ)だ
ほら　いま面白(おも)いことが始(はじ)まりますよ
あら　トマトを運(はこ)び出したわ

○

火星では一日に二回　食物を市民に配ります
やあい　みんな窓から首を出した

○
ほら、あゝして下から投げるのですよ
やあ上手だなあ

○
うけとるのもうまいわね
あんな高いテッペンまで上る
僕もトマトを喰べたいなあ　好きなんだけれどなあ……

○
ほら　合図をすると投つてくれます
やあ投げてくれたぞ
上手にうけとれ

○

おいしい　おいしい
舌が落ちさうにうまいわ
火星のトマトはうまいぞ

○

向ふの建物が市役所
その左の曲つた建物は何んです
建物ではありません　あれは火星の天体望遠鏡です
えつ望遠鏡？　すごいんだなあ

○

ぢや、あそこが火星の天文台ですか
さうです　行つてみませう

○

御紹介します　こちらが火星天文台の所長さんです

僕　星野テン太郎です
わたし　星野ニャン子よ
僕は　星野ピチです

○
僕のお父さんは　地球の天文台で研究してゐます
これはこれは　ようこそ　星野さんは私よく存じてをります
あれつ？

○
こないだは　あなたのお父さんと月野博士と髯のひつぱりつこをやりましたね
あれつ？　どうして知つてゐるんだらう

○
よく知つてゐますよ　あははゝゝ
地球の出来事は　火星からは、みんな見えるのですよ
おどろいたなあ……

○
なにも驚(おどろ)くことはありませんよ
みなさん、この天文台の設備(せつび)を注意(ちゅうい)して見て下さい
すごいなあ……

○
テン太郎さん　あなたのお父さんは　どんな望遠鏡(ぼうえんきやう)をお使ひになつてゐますか
いろいろあります　口径(さしわたし)六吋(インチ)のと　大きいのは二十四吋(インチ)のと
火星のは　地球のの千倍(ばい)も大きいのを使つてゐます

○
ぢや地球(きう)の出来事(ごと)は　なんでもみえるんだなあ
さうですよ　さあ一つ望遠鏡(ぼうえんきやう)をのぞかせてあげやうか

○
さあ　テン太郎さん　ごらんなさい

アッ？　お父さんだ
わたしにも見せて
僕にも

○

あなたのお父さんが　何にかしきりに計算してゐるでせう
ほんとにさうだ
やあ　手帳の上の数字まで見える

○

お父さあーん　僕です　テン太郎です
あははゝゝ　呼んだつて聞えませんよ
わたしにも見せて

○

さあ　望遠鏡の方向をかへて見ませう
あら　なんだか見たことがあるやうなところだわ

どれどれ　僕にも見せて

○

あれっ　わかった！　お豆屋(まめや)だ
ぢや　学校のそばにあるお豆屋かしら？
どれどれ　見せて

○

やつぱりさうだ　やあ　子供(ども)が豆を買ひに来た　おや、おぢさんが豆を三粒(つぶ)こぼした

○

おどろいた　何んでも見えるのね
どうもいろいろありがたうございました
地球へかへつたら　星野博士(のはかせ)や月野博士によろしく
さあ　これから市長(しちやう)が貴方(あなた)たちの歓迎会(くわんげいくわい)をひらくそうです　行きませう

大歓迎会(だいくわんげいくわい)

○
あれが　ミルチス・マヂョル市庁(しちょう)の玄関(げんくわん)です
やあ…
りっぱですね

○
やあ　ずゐぶん列(なら)んでゐるな
わたし　なんだかはづかしいわ
なんだ弱虫(よわむし)　大丈夫(ちやうぶ)だよ

○
テン太郎さん　この人がミルチス・マヂョル市長(ちやう)です
これはこれは　ようこそ　ようこそ

○
さあ　どうぞ　ここへおかけ下さい
こんな正面にですか
地球からのお客さんです　さあどうぞ

○
ニャンちやん　すましてゐるなあ
あんただつて気取つてるわ

○
これより地球からはるばるおいでになつた　お客さんの歓迎会を開きます
まづ最初　地球のお客さんから　自己紹介をしていただきます
？
？

○
こまつたわ　ジコショウカイつてなんだか　わたし知らないわ

僕も知らないよ　こまつたなあ
それはね　自分がどういふものだか　自分でいふことを　自己紹介といふんだよ　僕がするからまねをしたまへ

○
みなさん今日は　僕は地球の小学生で名前は星野テン太郎　毎日学校へ行くのが仕事です
ははあ学校　火星にはさういふものはありませんな

○
僕は　星野ピチといひます　地球の犬であります　仕事は　泥棒や怪しいものを追ひ払ふことです
ははあ　犬、泥棒　怪しいもの火星にはさういふものは居りませんな

○
わたくしは星野ニャン子と申します　地球の猫の女の子であります　仕事は悪い鼠を喰べたり追つたりいたします
猫，鼠　さういふものは火星にはをりませんな

○
これより音楽会　つづいておどりの大会をひらきます

○
すてきねー
このすばらしい音楽はあのラッパのある自動音楽機が　ひとりで奏ってゐるのです
愉快だなあ

○
あっ、これはへんだぞ
どうかしましたか

○
急にお腹が痛くなつてきた
それは大変！
あら　わたしもお腹がチクチク痛くなつてきた

○

ウーン　ウーン
痛い　痛い　あいたつッ
僕(ぼく)もお腹が痛い
これは大変だ　病気(びやう)らしい
さつそく病院(ゐん)に送(おく)るやうに

○

お腹が痛い　ウーム
痛い痛い
アーン　アーン
早く　病院車(しや)を呼べ
みなさん　せつかくですが歓迎会(くわんげいくわい)は中止(ちゆうし)にいたしまあーす

腹痛

○
地球のお客さんが病気になつたのだ
どうしたのだらう
やあ　病院車がやつてきた
（みなさん　さわがないでくださあーい）
○
いたい　いたい
ピチ　あんまりあばれてはいけないよ
でも　痛いんだア

○
どうも　様子がわからん
みなさん　手をかして下さい
病人だから静かにのせて下さい

○
それ！　病院までスピート

○
さあ　病院へ着きましたよ

○
さつそく　注射を百本ほどやらなければ
ウワア　そんなに注射するんですか

○
ここがレントゲン室です　お腹の中を見てあげませう
お医者さん　早くみてちようだいよ　いたいんですもの

○
ははあん　これは怪しい

お腹　どうかなつてゐますか
早く痛いのを治して下さい
痛みはすぐとめてあげますよ
しかし　これは治療が長引きますな

○

さあ　病室に入るのです
これこれ　病室にベットを三つ用意して
はい
困まつたことになつたねえ

○

しづかに寝てゐらつしやい
どのくらゐたつたら治るんだらうなあ
痛みはすぐとめてあげますよ
やあ　うれしい

○
ただいま市長からお見舞の花がとどきました
どうですみなさん　痛みはとまつたでせう
やあ　痛いのが治つたぞ

○
さあ　市長からの花束です
やあ　ありがたう
火星の市長さんは親切だわね
きれいな花だなあ

○
あれつ？　僕が花を握つたら燃えだした
どうしたんでせう
これは大変だ
いや　それほど熱が高いのです　だからおとなしく寝てゐることです

○
テン太郎さん　どうなんるんでせうね
なに　すぐ治るよ　火星の医学は進歩してゐるよ

○
これは驚いた　僕も、大変な高熱だ
あら？　手にふれるものがみんな燃えちまふわ
わあ　みんなすごい熱だ

○
あの病気はつまりペチャ　クシャ
うむ、それでペチャ　ペチャ
それだから　ペチャクシャ
どうも大ぶ病気が重いのぢや

○
あれつ？　なにを病人がさわいでゐるんだらう

（ドタン　バタン）

○

やあ　みなさんどうしました
だって　手にさわるものみんな燃えるんだもの
いま火を消(け)してゐるんですよ

○

火が燃(も)え出したらテン太郎さん　そこのボタンを押(お)して下さい
ボタン?
どれでせう
あゝ　このボタンを押すんですか

○

（ザザアー　ザアー　ザアー）

○

あつ？　びつくりした
天井から大雨が降つてきた
やあ　これは面白い面白い

○
熱が大ぶありますから　あまり手をふりまはさないやうに
みなさん　手を額の上にのせて寝てゐるのです
これは退屈だなあ
あゝ　早く治りたいわ…

○
さて、みなさん　あなたたちは今日なにを召上りました　トマトをたべたでせう　しかも種まで
ハイ　僕たちはたべました

○
それがいかんのです　種をたべたのが

地球では　トマトは種までたべるんですよ

○
火星ではトマトの種はたべません　種は、ていねいに出して運河に捨てます
すると　大洪水のとき種は畑に自然にまかれる
それぢや　種をまかなくてもいいや

○
あなた方は　トマトを種ごと呑んだ　だからトマトが　お腹に生へだしたのです
えつ？　僕たちの体の中に？
トマトが生へだしたんですかあ？
ウワア！　困つた

○
困つたなあ
アーン　アーンあたし　困つたわ
泣いたつて治りはしないよ

いや心配(しんぱい)なく　かならず治してあげませう
ぢや　また見舞(まい)ひにまいります

トマト騒動

○

あゝ　つまらないなあ
ピチちやん　さう手をふりまはしちやだめよ
いやだ　退屈だよ

○

わあ面白い　握つたものがみんな燃えるよ
だめだつたら　ピチちやんおよしよ　およしつたらさ
うるさいなあ

○

みんな静にゐなけりやあ治らないよ
そう手をふりまはしちやだめだつたらさ
いくら言つてもわからないのこのひと

あ痛(いた)！　あれっ　引(ひ)つかいたな

○

あつ！　ニャン君　大変(へん)だ
あら　わたしのリボンが　どうしやう
あッ！

○

困(こま)つちやつたなあ
アーン　アーン
だれか早く消(け)してちようだい
さうだ早くあのボタンを押(お)さう

○

やあ　これは涼(すず)しい
ごめんね　ニャンちやん
アーン　アーン　だつて　わたしこれきしリボンもつてないんですもの

○
ひどいわ　ひどいわ　リボンがない……
アーン　アーン
ごめんね　そのうちにどこからか拾(ひろ)ってきてあげるわよ

○
もし　もし
あつ　だれかきた
……
……

○
まあー　みなさん　どうしました　室(へや)の中が水だらけ
やあ病院(びやうゐん)の看護婦(かんごふ)さんだ
看護婦さん　ピチちやんがわたしのリボン燃(も)やしてしまつたの

○

ボタンを押して　水をとめて下さい
ホイキタ　合点だ

○

とき／〃＼喧嘩するんですよ
だつて　リボンをなくしちやつたんだもの
さあ　泣くんぢやないですよ　かわりをあげませう

○

さあ　わたしのリボンをあげませう
まあ　うれしい！
やあ！　素的だなア！

○

ではみなさん　喧嘩をしないで　おやすみなさいよ
看護婦さん　リボンありがたう

看護婦さんおやすみ！

○
僕が　君のリボン　焼いたからもらつたんだよ
そんなことないわよ　いぢわる
親切な看護婦さんだな

○
困つたなあ　トマトがお腹に生へる病気なんて
わたし　地球へかへりたくなつてきたわ
駄目だい　病気が治らなければかへれないや

○
では　あの地球からのお客さんたちは　野外病院の方へ移しませう
なるべく患者を驚ろかさないやうにね
準備はできました

火星の看護婦さん

○

あなた方はこれから野外病院の方へ移ります
どうです　体の具合ひは
どうも熱が下りません
外の病院へ行くんですか

○

では　トマトの葉つぱで三人とも目かくしをしてくれ
はい　かしこまりました
どうするんですか
心配だわ

○

そんなに心配しなくともいいですよ

でも、わたし気味(みー)がわるいわ
あゝ　何んにも見えない
自動車を三台用意(だーい)
はい　かしこまりました

○
用意ができました
では出発(しゅっぱつ)！

○
どの辺(へん)を走つてゐるのか　さつぱりわからない
ここは運河(うんが)づたひに走つてゐるのです

○
野外病院(やぐわいびやうゐん)といふのはどんなところです
それはハイカラな病院ですよ

○
みんな離(はな)ればなれになつてしまつたわ
またすぐみんなと一緒(しよ)になりますからね

○
さあ　みなさん病院(びやうゐん)に着(つ)きました
この辺一帯(へんたい)が病院です
だつて目かくしされてるから見えませんよ
クンクン　何(よ)にか良(よ)い匂(にほ)ひがする
トマトのやうな匂ひがする

○
さあ　この入口から階段(かいだん)を下りませう
ころばないやうに

○
なんだか地面(めん)の下を歩いてゐるやうだ

さうなんです
わたし　いやだわ
心細(こころぼそ)いね

○

長いらうかだなあ
いやになつてしまふわ
もうすぐ地上(じやう)に出られます

○

さあみなさんもう着(つ)きました
葉(は)つぱの目かくし取つていいですか
まだ　まだ

○

あなた　この台(だい)の上に立つてゐてください　ころばないやうに
やあ体(からだ)が上へあがるやうだ

（ぶるん　ぶるん　ぶるん）

○

お次ーあなた　さあ、しつかり立つて
よし　スイツチをいれてくれ給へ

○

（ぶるん　ぶるん　ぶるん）
やあ　天国へゆくのか　地獄へゆくのか　わからない

○

さあ猫のお嬢さん　あがりますよ
あたし　こわいわ
心配しなくてもいいのです

○

（ぶるん　ぶるん　ぶるん）
あゝ　こわいー

○
さあ　仕事がすんだ　帰へらう
あの病人たちは　地球の病人なんで骨が折れますね
どうも　火星の病人とは勝手がちがひますね

○
わつ　こんなところに出てきた
これはガラスの筒の中だ
みんなはどうしたらう

○
あらまあ！　みんな　こんな容物に入れられちやつた

○

うわあ　みんな　ちりぢりばらばらになつてしまった
テン太郎さーん　早く救けて下さい
僕だつて出られないんだよ

○

こりや　いくらあばれても駄目だ　くやしいなあ
よし！　ここを出たらトマトたちめ　みんな踏みつけてやるから
わはあ　地球のお客の喰ひしん棒
種までたべたいやしん棒
ずゐぶん貴方たちは意地わるね　さうのぞくもんぢやないわ
お腹にトマトが生へるとさ
うわあ、これぢや手も足も出ないや　とんだ野外病院に入れられてしまつた

○

おや　お医者さんがやつてきた
どうです　火星の病院はなかなかいいでせう
ちつともよかないわ

早くこんなとこ出してよ
ははあ　おとなしくしてゐませんな

○
お医者さん　ひどいですよ　こんなところに押(お)しこめて
いや　さうではありません　地球(きう)にだつて温室(おんしつ)といふのがあるですよ

○
どれ診察(しんさつ)しませう
うわッ！
そう　こわがらなくてもいいですよ
だいぶよろしいやうですな

○
こんどはアーンと舌(した)を出してごらん
アーン

○
いや　なかなかりつぱな舌ですな
いや　みごと、みごと
舌なんかどうでもいいや　いつ治りますか

○
さやう　千年ぐらひたつたら退院ができるでせうえ！　千年？
ウワアー
アハハハ

○
さてこんどは猫のお嬢さんいかがです
ずゐぶんひどいわ　こんなところに入れて
ほほう　大立腹ですな　すぐ治りますよ

○

あら　まあ嬉しい！　親切な看護婦さんだわ
ほう　猫のお嬢さんはだいぶ君が気に入つてゐるやうだよ
ええ　リボンをさしあげたのです

○

このガラスの筒の中は　地球の温度と同じにしてあるのです
なるほど
さうすればトマトが　生えないですむんですか
その通り

○

ぢやみなさん　おとなしくしてゐるんですよ
またきますからね

○

もう　へたばつてしまつた
どこを見てもトマト畑ばつかりつまらないわ

地球へかへりたくなつたなあ

○

なんとかしてこゝを出られないかなあ
わたしだつて帰りたいわ
お父さんやお母さんに　急にあひたくなつてきた

○

やあ　テン太郎さんがメソメソ泣き出した
無理ないわ　あたしだつて悲しくなつちまつたわ　アーン　アーン
みんな地球がこひしくなつたんだ

地球に向つて

○
やあ　嵐だ！　嵐だ！
わつ！　こわい！　稲光が！
すごい暴風雨だ！

○
わア！
助けてえ！
みんな　しつかりするんだよ

○
わあ　ガラスの病院が倒れさうだぞ
もしかするとわたしたち　出られるかもしれないわ
風よ吹け吹け　ガラス病院を吹き倒してくれ

○
ワッショイ　ワッショイ
風さーん　頼(たの)みますよ
やっ？　病院が舞(ま)ひ上つた！

○
あれあれッ？
大変(へん)だ！
どうしやう？

○
あつ！
（ガチャン☆）

○
やあ　出られた

うれしーい

○

さあ　みんな集まれ！
テン太郎さあーん
どうしませう

○

どうしませう　テン太郎さん
何んとか考へなければ…
あッ　向ふから
親切な看護婦さんが走つてきた

○

やあ　看護婦さん！
わたしたち　ひどい目にあつたわ
さあ　みなさん！　今のうちに早くこの火星からお逃げなさい

○
またガラスの病院をかぶせられてしまふのはいやだい
すぐ天文台に行くのです　早く　早く！　そしてロケットでお逃げなさい

○
看護婦さん　ありがたう
さあみんな続け！
早く！　早くしないと追手がきます

○
なにをしてゐるのさ　ピチクン　トマトなんかむしつたりして　のんきだわね
いや　ロケットに食糧を積みこまなければ！
抜けめがないな

○
走れ　走れ

地球行きのロケットは　格納庫の一ばん右はじです
ありがたう！

○

さうだ！　わたし看護婦さんにリボンもらつたんだけれど　お別れの記念にあげるものないわ
ぢや　これをあげりやいい

○

ほんとにいいことを思ひついてくれたわ
これあげるわ　服のボタンだけれど
まあ！　きれいだことありがたう　ではさやうなら

○

さあ　天文台がすぐだよ
走れ　走れ！

○

さあ　着いたぞ！
これが格納庫だ
どこから入りませう

○
格納庫の天窓から入らう

よしつ！
それがいいわ

○
みんな　風に吹き飛ばされないやうに気をつけるんだよ

○
みんな　気をつけるんだぞ
危い　危い
あッ！　ここから入れるぞ

○

やあ　ずゐぶんロケットがならべてあるな
うわあ！　驚ろいた　地球行きはどれだらう
あんまり沢山あるからわからないわ

○

格納庫の右端だと教へてくれたよ
これは金星行きのロケットだわ
あつたあつた！　これだこれだ！

○

さあ、早くのりこまう
だつて広場にロケットを引き出さなければね
かまふものか　このまゝ発射して屋根を突抜いてしまふんだ

○

テン太郎さん　あんたロケット操縦できて
僕　知らないや
ぢや　駄目だ

○

大丈夫だよ　そこらへんのボタンをみんな押してみるんだよ
僕　ハンドルをみんな動かしてみる
それがいい　それがいい

○

なんだらう　ここに革帯がついてゐる
わかつた　それで体をしばるんだわ

○

しめた！　動きだした！
（ブルンブルン　シュシュシュ）

○
（ヅドン）
すごいぞ！
わッ！　ロケットが屋根を突きぬけた！
すごいぞ！

○
そこの丸窓からのぞいてごらん
あら！　看護婦さんが見送つてゐるわ
看護婦さーん

○
さらば火星よ！

○
もうどの位飛んだかしら
出発してから一分五秒！

早さはどの位？
おゝ　ものすごい！　一時間七千キロメートルの早さだ‼

○
どうしたの？
あれえ？　変だぞ　早く舵をさがしてくれ
舵はどれかしら

○
どうも見当がちがつた　地球ぢやない　月に向つて走つてゐるらしいんだ‼
えッ！　月に向つて？
大変だわ　どうしやう

○
やあ月だ‼

○

これは大変(へん)‼
月なんかに着いたら困(こま)つてしまふぞ

○
あッ　これが舵(かぢ)らしいよ
早くロケットを　地球(きう)に向けなければ‼

○
やあ　どうやらこんどは地球に向つてゐるらしい

○
やれやれ　やつと安心(あんしん)した
ほんとに心配(ばい)してしまつた

○
おや？　なんだか見たやうな街(まち)に着(つ)きさうだなあ……

○
あれあれ？　大変だ！　火星に舞ひもどつてきたわ

○
さあ困つた！　どうしたんだらう
あゝ　汗びつしよりだ

○
あれ？　わかつた！　ピチクン　あんた変なボタンを踏みつけてゐるわ
あッ！　これはいけない
やあ　成功！　成功‼

○
まつすぐに地球へ向つたらしい

○
ニャンちやん　右のハンドルをまはしてくれ

ピチクン　そこのボタンをおしてみてくれ
やれ　いそがしい

○

（ピピ　ピピ　ゲロンゲロン）
（ダダダダ）
（しゆしゆ）
ゲロン　ゲロンだつてさ　おかしい音だわね　ホホ

○

おお　地球が近づいてきたぞ

○

あの光つたところは　太平洋らしいね
テン太郎さん　海の中へ落さないやうにたのみますよ

○

テン太郎さん　トマト一つたべません
トマトどころぢやないよ　ロケットが故障かもしれないんだ
（ピピ　ピピ）

○

あれ　ニャンちやん　トマトをまた種ごと喰べちやつた
いいわよ　トマトが生へたら地球のお医者さんに治してもらふから
のん気な連中だな　どうもロケットがおかしいぞ
（ゲロン　ゲロン）

○

（ゲロンゲロンゲロンゲロ）
またゲロンゲロンが始まつたわ
やッ‼　大変だ！　ロケットが故障だ！
早く早く　パラシュートの用意だ！
（ピピィピィピィ）

○
どうするのよ
パラシュートを体につけるんだ
扉を開けたら外に飛び出す用意！

○
（ゲロン　ゲロン　ダダ　プップッ）
やあ大変‼　横ふりだ‼

○
（ババン）
うわーい　破裂したい

○
ニャンちゃん　ニャンちゃん
おや気絶してゐる

○
よし　一つ活(くわっ)を入れてやれ
（ポン）
ウーム……

○
あ！　わたし達(たち)助かつたわ

○
（ブツン）
あッ！

○
墜落(つゐらく)だ

○
痛(いた)いッ

○
あれッ？　ここはどこだ？

○
あれッ　君達はどうしてたの？……
テン太郎さん　寝台から落つこちたりして
きつとねぼけたんだよ

○
あゝ助かつた　夢でよかつた
夢をみたんだよ
わたし達びつくりしたわ

○
僕　君達と火星へ行つた夢をみたんだよ
だつて僕はなんにもみない

わたしだつて　何にもみやしないわ　つまらないわね

テン太郎の報告

○
お父さん　僕ゆふべ火星へ行つた夢をみました
それはよかつた　わしも見たかつたな

○
ピチクンも　ニャンちやんも　いつしよでした
わたし　そんな夢　みないわ
僕ゆふべの夢はつまらなかつたの
ははゝゝ　大勢で同じ夢をみるわけにはいかないよ

○
火星には天文台もありました　そこの所長さんがお父さんを知つてゐました
エッ？　わしを火星で知つてゐたか？

○

エヘン！　オホン
さうぢやらう　そこでわしの研究を火星で知つてゐたかね
ええ　何にもかもみな知つてゐました

○

月野博士とお父さんと髭の引つぱり合ひをしたのも
えッ？　それはまたどうして？　……
（フフ）
（クスクス）

○

火星では　高い大きなビルデングのやうな望遠鏡で　地球の出来ごとをみてゐるのですナニ？
そんなばかげたことがあつてたまるものか

○

だつてお父さん　ほんとにあつたんです
そんな馬鹿なことはない！
まあ貴方　それはテン太郎の夢の話ぢやありませんか

○
僕　夢でほんとにみたんですよ
ほい　失敗つた！　本気に腹をたてたか　ははゝゝ

○
さあさあ　朝ご飯の仕度ができました
しかしね　テン太郎
地球から火星を見るのに大望遠鏡がいるとはかぎらん
小さな望遠鏡でもいいんですか

○
さうぢや　鏡径八インチか十インチもあれば沢山ぢや
望遠鏡の大きさより大切なことがある

それはなんです

○
それを天文学者は『グット・シーイング』といつてゐるんだ
これは専門語だよ
グット　シーイング
グット　シーイング

○
グット　シーイング　僕は天文学の専門語を覚えてしまつたぞ　エヘン！
おやムヅカシイことを言つてテン太郎　それは一体なんのことですか
あれ　まだ聞いてゐなかつた

○
ははゝゝそれはね　天体を見るには機械にばかり頼らないで『見るのに具合ひのいい調子』にしておくことだよ
あゝ　わかつた　高い山のてつぺんに天文台をつくるとか

○
さうだ、しかしいくら高い山へ建てても雲が多いとこぢや駄目だ
さうですね　高くて雲がなくて

○
さうだ　地球の上の雲はぢやまになる　しかし火星の雲を見るのは　これは仕事だよ
むづかしいんですねえ…

○
テン太郎　火星に人間がゐたか
ゐましたよ　頭の大きいのと小さいのと
あらー　いつてみたいわねえ
ホヽヽ　面白いところねえ

○
気に喰わん　生物が居るはづがない　空気が薄くて住めんはづぢや

あれ、またお父さんが　テン太郎の夢の話で憤慨してゐますよ

○

あ　また失敗した

○

それから僕は　体がとても軽くなつて　空を自由にとびまはりました
あらー　あたし　いつてみたいわ
だめだい　テン太郎さんの夢の中へ行けるかい

○

火星の表面は地球の引力の五分ノ二しかない　だから人は地球にゐるときより二倍半は高く飛べるが　しかし、それ以上高くは飛べるはずがないのぢや
なあーんだ　それつぽつちぢやつまらない
お父さん　僕それから市長にあひました　街の名まへはミルチス・マヂョル市といひました

○

（えつ！　ミルチス・マヂョル？）
あつ！　危い！　お父さん
博士が目をまはした
どうなさいました　貴方！

○
お父さん　しつかりして下さい
まあ　お行儀が悪い
いや　驚ろいたよ
あゝ　びつくりした

○
テン太郎　お前の行つた街がミルチス・マヂョルといつたかね
ほんとうですよ
なんですか　そのミルチス・マヂョルといふのは貴方

○

わしは驚ろいたよ　お前の夢の話の中でそれだけは真当のことだよ
エ？　お父さん　ほんとにあるんですか
まあ　火星にさういふところがあるのですか

○

火星の街の名前ではないが　別に地球の学者がつけた運河の名前にたしかにあるよ
どうしてテン太郎がそれを夢にみたでせう

○

たしか　ミルチス・マジョルといふのもあれば　運河にはネクタル・アガトドエモンとか　ハデスとか　みんな名前がつけてある
それぢや　火星の地図がちやんとできてゐるんだなあ

○

それにしてもお前が夢でミルチス・マジョルをみるとは　どうも不思議だ
ほんとにふしぎだわ
ほんとにねえー

○
どうもおかしい　まてよ

○
あら　どこへ行つたんだらう

○
テン太郎さんばかり面白い夢をみてつまらないな
あ、さうだ　さうだ　ニャンちやんは火星の看護婦さんからリボンをもらつたんだよ
まあ！　ほんとう……なら……うれしいけど

○
これぢや　これぢや

○
テン太郎　お前はいつかお父さんの書斎でこんな本を見たことがなかつたかい

どんな本です　僕ときどきお父さんの本を見ますから

○

この本ぢや　どうだ　こういふ絵を見たことがなかつたか
あッ！　あつた　見ましたよ

○

これが　ミルチス・マジョルぢや

○

うーむ　わかつた　それぢや！
お前は本を見て頭の底に名前を覚えた　それが夢の中にフツとでてきたといふわけぢやきつとさうだ

○

お父さん　ほんとに僕が火星へ行つたと思つたんですか
さうは思はんが　ほんとうの名前を言つたんで　わしもびつくりしたよハヽヽヽヽ

ホホヽヽ

○

テン太郎は夢で、だいぶ火星の嘘(うそ)を頭に仕込(しこ)んだから　わしの研究室(けんきうしつ)へおいで　ほんとうを見せてあげやう

うれしい！　今日(けふ)みんな行かうね

いつていらつしやいませ

人間のヒゲと猫のヒゲ

○

テン太郎さん　あんた大きくなつたら天文学者になるの
僕なるんだ
いいなあ　さうして火星へロケッ飛んで行くの

○

いやだい　火星に行くのは　やつぱり地球に住んでゐるのがいいよ
あら　弱虫の天文学者に　なるのね

○

だつて　お父さんやお母さんのゐない所へ行くのはいやだい

○

ぢや　君たちも僕といつしよに火星へ行く　どう？

ピチクン　あんたどう
あんまり気が進まないな

○
やあい　君たちだつて弱虫だい
行けても　帰へれなくなつたら困るわ

○
ニャンちやんは大きくなつたら何になるの
大きくなつても　猫よりほかに何にもなれなくてつまらないわ
そんなことをいへば　僕だつて犬より出世はできないや

○
それでもいいの　鼠を上手にとれるやうになれば……
さうだ　さうだ
みんな本分をつくせばいいんだ

○
あ！　天文台の庭でお父さんがこつちを見てゐる
早く行かう
走れ！　走れ！

○
ほう　よく来た、何にをみんなでしやべつてゐたんだ
ニャンちやんとピチ君が天文学者になれないつて悲観してゐたんです

○
アハハハ　それは考へちがひぢや
ニャン子　お前のヒゲは何のためにある
このヒゲですか　鼠をとるために大切なものです

○
では　どういう風に使ふか　やつてごらん
ハイ　世間では猫はどんな暗やみでも見えるといひますが嘘です

少しも光のない暗い所では目は見えませんから

○

さういふ時にかういふ格構でヒゲをかうして床にさはつて歩いて鼠の居さうな所をさがすのです

○

だから人間はわたしたち猫のヒゲを切つてはいけません

○

そらごらん　猫のヒゲはそんな立派な使ひ道がある
ところで　この人間のヒゲは何のために生へてゐるか
あゝわかつた　威張るためについてゐるんだ
ハハハおかしいな

○

ハハハ　その通りぢや　それからニャン子は足をなめたり　耳や鼻を何度も洗ふときがあるね

ええ　それは雪降りや嵐がやつて来る前　お天気が変りさうになるからです

○

それごらん　天気の変り目をちやんと知るのは天文学者より偉いんだよ
猫だつて　偉いんだなア
ほんとだ
そんなにほめられるとあたし恥かしいわ

○

やあ　ニャン子がほめられてすつかり恥かしがつてゐるよ
ニャンちやん　そんな顔をするとこつちが恥かしくなつてしまふよ
あれ、こんどはピチ君が恥かしがつてゐらア

○

（火星実験室）
ここが特別研究室だ　さあ　みんなお入り
へんな建物だなあ

○

やあ　おかしいなあ　中ががらんどうだ
なんだか薄気味がわるいわ
さあ　そこに丸窓や扉があるから　のぞいてごらん

○

やあ　おどろいた　ここの部屋は二重になつてゐる
機械がぎつしりあるわ
ここは何にをするところです
いま　いろいろの実験をやつて見せやう

○

さあ　みんなマスクをかけ給へ
ニャンちやん　マスクのかけ方がさかさまだよ
あら　さう

○
マスクつて変んな格好のものね
そのマスクは酸素吸入器にもなつてゐるんだ
みんなタコのお化けのやうだ

○
おや　お父さんだけマスクをかけないんですね
わしは次の室だ　最初この部屋を火星の状態にする

○
何が始まるんだらう
お父さん　あんまり恐いことをしないでね
なんぢや　科学者の子がそんな弱音を吐いて

○
もし危険なことが起きたら　扉をあけてそとに出たらいい

○
説明はその壁にうつる仕掛になつてゐる
みんな用意はいいか
イイデス……
なんだ　情けない声を出すね

○
あれ　お父さんが隠れてしまつた
やあ　機械のうなる音がしだした
（ブルン　ブルン　ブルン）
テン太郎さん　大丈夫かしら

○
（ブルルン　ブルルン　ブルブル　ピューキャタ　キャタ　キャタ　ホホホヽ）
？
？
あれまあ　機械が笑ひ出したわ

○
や　映写板に何にか映つた
やあ　これは面白い
（これからこの部屋の空気をかき出してしまふ。）

○
（ガッタン　ガッタン　ガッタン）
（火星の直径は四千二〇〇哩ある　地球の半分よりちよっと長いくらいだ。）

○
あら？　わたし体が軽くなつてきた
おかしいなあ　しやぼん玉のやうに軽いぞ
やあ　面白い　面白い

○
飛んだり　跳ねたり　愉快だなあ！

やあ　面白いなあ
いくらでも跳べるわ
（火星の重力は　地球の五分ノ二しかない。だから君達の重さも五分ノ二にへった。）

○
体が軽くて気持ちがいい
（地球で百五〇封度の重さの人間も、火星では六〇封度になる。人は地球にゐるときよりも二倍半高くとべる。）

○
（いま実験室は火星のやうになってゐる。酸素・窒素・水蒸気なんどは有ってもとても少い。）
あれ酸素が少いんだって　マスクがとれたらみんな死んでしまふぞ
まあ　おそろしい
それぢや火星には人間なんかゐないや

○
酸素がなくちや猫だって住めないわ

（火星には水も少い。もし海があるとすれば、春の雪どけのときだけできる浅い海だ《うみ》だ。）

○

（地球から見える火星の黒いところは、だから海といふよりも沼か　小さな沼の集ったのか、川だ。）
火星といふところは　寂しいところなんだなあ

○

（これが想像した火星の表面で一面の砂原で植物もある。）
やあ　寂しいところに来てしまったぞ
まるで砂漠のやうね

○

僕の見た火星の夢は　こんなに寂しくはなかつたよ
だつて夢だもの　なんでも見られるわ
さうだ　夢より科学の方がほんとうだ

○
ちがわい　夢からいろいろの科学だつて生れたんだい
ぢや　テン太郎さん何んと何にが生れたの？

○
たとへば　人間が空を飛びたいと考へてゐたから　とうとう飛行機といふものを考へ出した
さうだ　想像は発明の母だ！

○
ちがひますよ　テン太郎さんの夢は目をつぶつて見たんでせう　科学を生みだす夢は目をあけ
てみる夢だわ
こいつ　生意気な！
目をあけて　夢を見られるかい

○
みられるわ　さういふ夢を想像とか空想とかいふんだわ

うそだい　科学者なんか空想なんかしないよ
ちがひますよ　しますよ

○

ニャンちやんなんか駄目だい
鼠の夢より見ないんだから
ひどいわ　ひどいわ　アーン　ぢやピチちやん　あんたは泥棒を追つかける夢より見ないんだわ　アーン

○

（これこれみんな喧嘩をするな‼）
あれ？　叱られた
なんでも映るんだなあ
（フフフ。）

○

あれニャン君が今　フフつて笑つたぞ

いま泣いた烏(からす)が笑ひだした　ハハハ
だつて　あんなところに映つたりして　おかしいんですもの
ニャンちやん　仲直(なかなほ)りしやうね

○
あら変(へん)だわ　わたしなんだか寒(さむ)くなつてきたわ
どうしたんだらうね
僕(ぼく)は少しも寒くはない

○
お寒(さむ)い！　もうたまらないわ
（ブルブルブル）
ほんとだ　少し寒くなつてきたぞ
僕(ぼく)はすこしも感(かん)じませんよ

○
ニャン君　僕とピチ君の間(あひだ)にかうしてはさまつてをいでよ

（ブルブルブル）
昔から猫は　寒がりときまつてゐるんだよ

○

あれッ、これはきれいだ
ほれごらんなさい　こんなに氷だらけになつたわ
（ブルブルブル）
やあ　きれいだなあ　うわあ、寒い寒い

○

（実験室の中の温度をだんだん下げて　火星の寒さにしてみる。）
火星の寒さはどの位だらうな
おや寒く　なつてきたネ
（ブルブルブル）
昔から犬は　寒がらない動物であつたはづだわ

○

（火星にも北極のやうな寒いところがある。『極冠』と呼んでる。まんなかのは火星にのぼつた月だ。火星の寒いところは零下四十度から零下七十度の寒さだ。）
おお寒い寒い　これはたまらん

○
あッ！　ピチクンがのびちやつた
あれ？

○
お父さん！　大変です　あけてください！
そんなところたたいてもだめだわ　そこの扉をあけるんだわ

コオロギと蛙

○

やあ助かった
お父さん　ピチクンがこんなになつちまつた
こりや失敗　しかし実験室はまだ零下四十度そこそこなんだよ
早く温めてやらなければ……

○

なに大丈夫だよ　ほら目をあけた
おや？　ここはどこだ
あんた凍え死ぬところだつたのよ
ピチクンはニャンちやんよりも弱虫だなあ　アハハ

○

さあ、おいで　火星行ロケットを見せてあげやう

僕は火星へ行きませんよ
ハハハ　テン太郎はすつかり火星嫌ひになつたね
ちがひます　僕は星はみな好です　中でも火星は大好きです

○
それに　どうして火星へ行くのをいやがるんだね
あんまりへんな夢をみてしまつたんです

○
ハハハハ　それでテン太郎は　ほんとうの事を知りたくなつたんだね
さうです

○
さうぢや　ほんとうのことを知ることぢや　火星に人間がむりに居るやうに考へてはいかん
さうですね　人間がゐるかゐないか研究すればいいんですね
さうぢや

○
火星の夢を見たければ　テン太郎のやうにベットの上で見たらいい
僕もう火星の夢はみません　こんどは機械をのぞいてほんとうのことを沢山知るんです
賛成！
賛成！

○
さあ　みんな帰らう
お父さんがいろいろのことを見せてやつた　こんどはテン太郎は自分の学校の勉強を帰つて
やりなさい
さやうなら
さよなら

○
これこれテン太郎　一寸まて　きのふからな　お父さんの髯にコオロギが巣をつくつたんぢや
（エ？）
まあ驚いた　髯の中にですか？

○
さうぢや　わしは殺(ころ)すことがきらひぢやから放(ほう)つておいたよ
ホレ鳴(な)いてゐる
やあ　ふしぎだ？

○
あらほんと聞きたいわ
僕にも聞かせて下さい
さわいぢや鳴かないよ　そつと寄(よ)つてきたまへ

○
（コロ　コロ　コロ）
ああ　ほんとだ！
どうして髯の中になんか入つたんだらうな
いい声(こゑ)だなア

○
（コロ　コロ　コロ　ハクション）
アレッ　コオロギが　くしやみをした！

○
ア、わかつた　お父さんが口で鳴く真似(まね)をしてゐたんだ
では　みなさんさやうなら

○
お父さんにやられちやつた
くやしいわね
なんだかこのまゝ帰るのは残念(ざんねん)だなあ

○
僕もさうだ　子供(ども)や犬や猫(ねこ)が科学者(くわがくしや)に負(ま)けるなんていまいましいなあ
なんだか、このまゝ帰れませんね
くやしいな

○
いいことを考へついた　みんな……ネ
うまい考へだな
くやしいわね

○
（ゲロゲロゲロゲロ　ゲゲゲゲゲゲ　ゲーロゲロ　ゲロゲロ）
こりや助からん　どうもうるさい蛙共ぢやなあ

○
星野さん　だいぶ蛙がうるさいやうですな
（ゲロゲロゲロ）
研究も何もできませんですね

○
おや　これは

ヤしまつた
さつきの敵(かたき)うちか　こりやいかん

○
（ピシャッ）

○
さあ　みんな帰(かへ)らう
（ゲロゲロ　ゲロゲロ）
やつと胸(むね)がスースーしたわ
（ゲゲゲゲゲゲ）
アハハハ
（ゲーロ　ケロケロゲロ）

青空文庫情報

底本：「火星探険完全復刻版」晶文社
　　1980（昭和55）年8月10日発行
底本の親本：「火星探險」中村書店
　　1940（昭和15）年5月30日発行
※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記を新字旧仮名にあらためました。
※旧仮名遣いで誤っていると思われる箇所がありますが、底本通りにしました。
※テキスト中「〔〕」で囲まれた部分は、底本では手書き様の文字で書かれています。
※底本には「ニャン」と「ニヤン」が混在していますが、そのままにしました。
※テキストの大半はふきだし内のネームで、改行が多く使われています。テキスト化にあたっては、適宜分かち書き（文節間の○字空き）をして、読みやすくしました。
※「ベット」「スピート」などの外来語表記は、そのままにしました。
入力：古江佐織
校正：浜野　智
2006年3月26日作成

青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

小熊秀雄全集－22
火星探検―漫画台本

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　小熊秀雄
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/